『5つの提言』を受けて，今やるべきこと（3）
―ICTの効果的な活用 ～ボイスレコーダーを用いた実践～

授業レポート CLASS REPORT

大岩樹生　Ohiwa Tateo　（新潟県新潟市立白新中学校）

1. はじめに

「ワークをどの程度指導に生かしていますか。」

ワーク，単元ごとの復習プリント，リスニング教材など様々な補助教材を教材費から購入している学校が多い中，果たして，それらをどのくらい学習指導に生かせているか。ワークは，定期テストの際に回収，点検し，学習プリントは，テスト直前に配布し，授業で少しばかり解説をする。せいぜい，この程度ではないだろうか。少なくとも私はこの程度だった。

ところで「国際共通語としての英語力向上のための５つの提言と具体的施策」の提言３に「ALT，ICT等の効果的な活用を通じて生徒が英語を使う機会を増やす」とある。今回は，ICTの活用の一つとして，ボイスレコーダーを用いた実践について紹介する。

2. 実践のきっかけ

教科書本文を自力で音読できない生徒が多く，読めないのにスペルを覚えようとしている実態を見て，愕然とした。授業で繰り返し指導用CDを聴かせたが，状況は変わらなかった。

そこで，ボイスレコーダーの活用を思いついた。中学生の時，LL（Language Laboratory）教室があり，各自のペースで繰り返し聞き，音読練習したのをよく覚えている。ボイスレコーダーの音声は予想よりはるかに明瞭で，扱いやすく，Portable Language Laboratoryのような物であると感じている。

私は今年度，１学年を担当している。年度当初に教材費で購入したのは，ペンマンシップ（210円）とボイスレコーダー（3,400円）だけ。ワークや単元ごとの復習プリントは，３年間一切購入しない。

3. 指導の実際

授業ではオリンパス製（OLYMPUS Voice-Trek DP-201）のボイスレコーダーを使用している。液晶画面が大きく操作が楽，再生スピード変換が可能（0.5，0.75，1.25，1.5，2.0倍速），そして長時間（100時間）の録音が可能である。

以下，具体的な指導例をもとに紹介する。

(1) ディクテーションにおける活用

後期より，生徒にDictation Booklet（資料１参照）を配布し，週１回程度，授業の最初の５分で，ディクテーションを行っている。あらかじめ，教師の音読を録音しておき，生徒は繰り返し聴きながら，20語程度の文章を聴きとる。音声を聴くことが苦手な生徒は，再生スピードを変えたり，特定の部分を繰り返したりして，なんとか聴きとろうと頑張っている。また意図的に未習語を入れ，音から単語を推測する機会も設けている。その後，和訳や解説のページを参照させ，重要語句や文法などをスパイラルに復習させている。

《資料1》

5	A: What time do you get up every morning? B: I get up at six-thirty. A: You get up early. I get up at seven.	22
6	A: What do you have in your pocket? B: I have many CDs. A: What music do you like? B: Japanese pops.	18

A: あなたは毎朝何時に起きますか？ B: 6時30分に起きます。 A: 早く起きますね。私は7時に起きます。	◎ 数字: 1 one　2 two　3 three　4 four　5 five　6 six　7 seven　8 eight　9 nine　10 ten　11 eleven　12 twelve　13 thirteen　14 fourteen　20 twenty　40 forty　100 hundred　1000 thousand ◎ 時間帯: morning - noon - afternoon - evening - night - midnight　朝, 午前　正午　午後　夕方, 晩　夜　深夜 ◎ wake up「目を覚ます」→get up「起きる」→go to bed「寝る」→sleep「眠る」
A: ポケットに何を持っているの？ B: たくさんのCDだよ。 A: どんな音楽を聴くの？ B: J-popだよ。	◎ a few「2, 3の」some「いくつかの」, any(主に疑問文で)「いくつかの」, many「(数えられる名詞の前について)多くの」, much「(数えられない名詞の前について)多くの」, a lot of ～「(可算, 不可算に関係なく)多くの」 ◎ × What do you like music?　必ずwhat sports / what foodのように, 必ずwhatの後にジャンルを示す単語を付ける。

(2) 単語の発音指導における活用

筆者の音読指導を振り返ってみると，文字と音声をつなぐフォニックスの指導が不十分だったと反省している。そこで，本年度は年度当初から，継続してフォニックス指導を行っている。段階的にフォニックスシート（資料２参照）を配布し，単語の範読を録音し，何度も聴かせ，英単語が読めるよう，音読指導の充実を図った。

《資料2》

Phonics 3

No. 3　早い者勝ち二重母音

母音が連続で重なった場合，前の母音のみ「名前読み」で読み，後の母音は読まない。【w】,【j】は半母音と呼ばれ，子音の中でも母音に近い音とされる。

ai ay	【ei】	daily, paint, rain, Spain, train always, way, day, display, gray
ea ee	【iː】	beach, Beatles, clean, dream, easy, sea, tea beef, beetle, free, green, street, sweet, tree
ie ye	【ai】	tie, pie, lie dye, rye, bye
oa ow	【ou】	coat, toast, coast, boat, goal, road, goat grow, low, slow, snow, window, yellow, rainbow

例外１：i ではなく，e の方を「名前読み」するパターン

ie	【iː】	field, piece, priest, shield, chief, thief

※　friend のみ，e を「あだ名読み」する

例外２：y を【i】と読むパターン

oy	【ɔi】	soy, toy, coy, boy, joy

(3) 個別指導における活用

自己紹介のスピーチや Show and Tell などを行う際，あらかじめ生徒に原稿を書かせ，それを暗記させる。しかしながら，生徒は自分の書いた原稿を読むことができない。このような経験は誰にでもあるだろう。ここでも，ボイスレコーダーが役に立つ。

原稿ができあがった生徒から，教師はその場で，ボイスレコーダーに原稿の範読を録音し，何度も聞かせ，練習させる。録音してしまえば，教師は slow-learners の個別指導に専念でき，しかも一人一人の練習量も確実に UP する。また，授業中では，すべての生徒の発音やイントネーションをブラッシュアップするのは難しいが，音読をボイスレコーダーに録音させ，授業後に一人一人のボイスレコーダーを聞くことで，時間を有効に使うことができる。

(4) コミュニケーション活動における活用

学級全体で，インタビューなどのコミュニケーション活動を行う際，アイコンタクトを徹底させるために，ワークシートを持たずに回らせ，自席に戻ってからその回答を記述させたいのだが，プリントを手放せない生徒がいる。また，プリントで遮られ，アイコンタクトが成立しないペアもよく見る。

この原因として，「対話例を覚えていない」ことと「いちいち自席に戻るのが面倒である」ことの二つが考えられる。

対話例（資料３参照）を板書し，部分的，段階的に消して対話を覚えさせた上で，ボイスレコーダーを持たせれば，アイコンタクトを図りながら，対話をスムーズに進めることができる。インタビューの対話を一気に録音し，自席に戻って再生し，答えをワークシートに記述する。この際，生徒は自分の質問が対話例通りにできたのかについても，客観的に把握することができる。

《資料3》

Let's interview!

Ask your friends about their breakfast and make a report.

	Name	Time	Food	Others
1	Mike	6:30	rice	like bread
2				
3				

～対話例～
A: What time do you eat breakfast?
B: I eat breakfast at about 7.
A: What do you eat for breakfast?
B: I eat bread.
A: Do you like bread?
B: Yes, I do. I live it very much.

1について
Mike eats breakfast at 6:30.
He eats rice for breakfast.
But he likes bread.

2について

3について

4. 実践の成果と課題

音読を一斉指導で行うと，どうしても口パクの生徒が出る。口パクは何百回，何千回行っても効果は期待できない。ボイスレコーダーでは，すべての生徒が自分の理解度に応じて，スピードや音量を変えたり，分かるまで何度でも繰り返したりすることができ，音読における一斉指導の限界を補ってくれる。

ボイスレコーダーの使用が奏功し，生徒がとにかく教科書本文をよく読むようになった。教科書本文を暗記している生徒も多い。先日，授業者が矢継ぎ早に課題を課した際，ある生徒が“That's enough!”と教科書本文で用いられた表現を用い，クラスが笑いの渦に包まれた。教科書本文で用いられている英文を，自然に用いている姿に，手応えを感じた。

半年間ボイスレコーダーを使用した上で，その効果に関して，アンケートを行った。すると，ボイスレコーダーの効果について，実に9割の生徒が肯定的な回答をし，次のように記述した。

- 1回聞いただけだと，忘れたり，覚えられないので，とても助かっています。
- 簡単に使え，覚えられるので，ワークより良い。
- 自分で読んだりするよりも正しい発音が聞けるし，その発音が身に付いてくるので，とても役立ちます。書き取りの時，速さの調節ができて，自分なりのペースで英語の学習ができるので，ワークを買うより良いと思います。
- 英語は話さないと覚えないので，ボイスレコーダーはいい方法だと思う。

ボイスレコーダーの有効性を実感し，「ボイスレコーダーを使った問題をもっと増やしてほしい」と記述した生徒がいた反面，他教科でワークを使用していることから，次のように記述した生徒も数名いた。

- ワークはやっぱりほしいです。でも，ワークを買わないなら，先生が作った問題集をたくさん出してくれればいいです。
- 「ご自由にとって」みたいな練習問題をください。

授業者自身，ボイスレコーダーの有効性を認識しつつも，その使用において煩瑣な点も感じている。たとえば，全員のボイスレコーダーを机上に並べ，一気に録音ボタンを押す。間違って音読したり，録音ボタンが押されていないボイスレコーダーがあったりしたら，悲劇だ。

また，これは実際に当校であったことだが，ボイスレコーダーを悪用した生徒が出た。悪用があったからと言って，機械を取り上げ，全員が使用できないようにするというのは，違う。大切なのは，間違ったことが起きたときに，なぜいけないのか，本来の使用目的は何なのかなど，丁寧に話し合い，集団としてルールを確認することである。

もちろん，3年間ワークを購入しないのだから，生徒の要望にもあるように，知識，理解の定着に関して，別の策を講じる必要がある。単元の終末に，自作の問題集を配布している。3年分作成するのは容易ではない。しかしながら，教員経験の少ない初任者ならまだしも，経験年数を重ねていけば，何十回と作成した定期テストの問題を集めればいい。むしろ，自分で単元ごとに問題集を作成すれば，それと類似の問題を定期テストで出題すればいいのだ。

5. おわりに

ボイスレコーダー購入の3,400円は高いか，安いか――もちろん，景気も良くなく，消費税の引き上げもあり，この値段は決して安くはない。だからこそ，副教材には，生徒の学力向上に資する物を本気で選定し，有効活用する必要がある。

ICTと聞くと，すぐにコンピューターやデジタル教科書などを想起する。しかしながら，どれも一斉指導に有効な物ばかりだ。一斉指導には限界がある。UDL（Universal Design for Learning：学びのユニバーサルデザイン）の視点から考えた時，個々の生徒のニーズに応じて，速度を変えられたり，何度も聴けたりするなど，個別指導に生かせるICT機器こそ，今の時代に求められているICT機器であると考える。

今後もその効果を最大限に引き出し，生徒の英語力を更に伸ばしていきたい。